

NEUTRAL 通信 vol.9

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」というNEUTRALのコンセプト実現に向け、NEUTRAL通信を発行しています！

第9回目は現在NEUTRALにて展覧会を開催中の出川晋さん。

NEUTRAL通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

「ぼくは、ぬいぐるみだった。」

2023.06.24sat. - 7.17mon.



現代美術アーティスト

出川 晋 / SHIN DEGAWA

1986年島根県生まれ。2010年京都精華大学芸術学部卒業。在学中から美術作家の井上信太に師事。美術や舞台美術の在り方を学ぶ。行方を失ったぬいぐるみやゴミ、漂流物などを使い、造形物やインスタレーション作品を制作する。一時は作品制作から離れ、新潟の限界集落にて山での生き方を学びに行くが、田舎での暮らしの難しさを痛感する。挫折から一念発起し、京都を拠点に再び精力的にアート活動を行なっている。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE



SHOKODO
KYOTO

NEUTRAL

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

街中へ出かけるとあちこちで祇園囃子が聞こえ、夏の到来をひしひしと感じる今日この頃。1階レジ前平台では「祇園祭ブックフェア」を開催中です。中でも特におすすめなのが『宵山万華鏡』（森見登美彦 著）です。時に面白おかしく、時に不気味に宵山の世界を描いたこの作品は、まさに万華鏡のように色々な宵山の表情が楽しめる短編集になっています。ご来店をお待ちしております。

営業時間：10:00～22:00 TEL：075-431-5551

SLOWPAGEではコーヒー豆の量り売りも承っております。毎月第2第4水曜日に【コーヒー豆20%増量DAY】を開催中です！こちらにて豆を挽くこともできますので、ペーパー用に...やフレンチプレス用に粗目で...などなどお気軽にお申し付けください。また近日中にスタートする「スローページ酒場」も着々と進んでますのでお楽しみに！！

営業時間：8:30～23:00 TEL：075-431-5551

印刷会社「修美社」が運営する印刷工房。本屋の中で本づくりから販売展示の提案をしています。

営業時間：10:00～18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

「ぼくは、ぬいぐるみだった。」

出川晋

2023.06.24sat. - 2023.07.17sun.

07.01sat. 17:00-19:00 タカカーンと飲食型鑑賞会 with バー出川 z1drink (¥500~)

07.17sat. 17:00-19:00 クロージングパフォーマンス

営業時間：10:00～19:00 TEL：075-431-5537

木内貴志「キウチアートマップ2023」

2023.07.01sat. - 07.23 sun.

木内貴志（1973年京都生まれ）による個展。「木内と美術と地図」をきっかけとした新作を中心に展示するほか、カフェ・書店・ショーウィンドーなどの館内各所には過去作品を展示します。生誕50年を迎える木内の「50歳の地図」をお楽しみください。

営業時間：13:00～19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休

※館内各所の展示鑑賞可能時間：各施設の営業時間に準じます。会期中無休



〒602-8242 京都府京都市上京区毘叟町287

[アクセス]

○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分

○京都市バス9番・12番・50番・67番系統

「堀川中売」バス停下車徒歩1分

○駐車場・駐輪場あり

※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ



Instagram



お問い合わせはHPまで



——子どもの頃のことをお聞かせください。

物心ついた時から家でぬいぐるみと遊んだりおもちゃで遊んだりしていました。レゴブロックも好きで、まずは説明書通りに作って、ある程度遊んだらそれを壊して変な乗り物とか、町とかを作っていました。小学生くらいまでは一人の時間が好きでしたね。BMXという自転車競技の中にフラットランドというジャンルがあるんですけど、先輩に教わって、中学生からやりだしました。公園で練習していると大人もBMXをやっていたりして、学校以外の社会が外にあると分かったときのワクワク感とか、触れられないものに触れている感じがありました。高校生のときは、学校で部活をした後に、家でご飯だけ食べて、そこから夜中までBMXに乗っているというのを、ほぼ毎日していました。今考えるとめちゃくちゃ体力ありましたね。

——芸術大学を選んだきっかけは何がありましたか。

高校が工業高校で、職業体験で工場に行き、一週間ライン作業をしました。ただその一週間というのが、人生で味わったことがないくらい苦痛で。それまでは、すぐ就職して家庭を作って、親の近くで暮らすと思っていたのが、外に出たいと思うようになりました。そこで家族と相談して、美術系の大学に行くことにしました。モノづくりが好きだったのもありますが、大きな理由としては、両親が京都精華大学出身で、小さいころから母の大学時代の思い出話を楽しく聞いていた、ということがあります。親の影響が強いですね。

——大学ではどんなことをされてきましたか。

大学時代は陶芸を専攻していました。当時代の学科の先生に、平面作家の井上信太さんがいらっしやって、友達を通して紹介してもらい、プロジェクトの手伝いに行っていました。信太さんは、舞台の中の平面作品、という観点で制作をされていて、ただ展示しているだけではなく、空間を使った展示や、舞台での美術の在り方、舞台の中でどうアートができるか、を考えられているのがすごく面白くて、ほぼ四年間ずっと回っていました。今回の展示もつるしてある作品だったり、ひもを引っ張る仕掛けであったり、空間を大きく使うのは信太さんの影響を受けていると思います。

——大学卒業後の作家活動についてお伺いします。

卒業後はバイトをしながら、グループ展に参加したり、ワークショップをさせてもらったり、少しずつ活動していました。当初は今と違うことをしていて、子供と遊びの延長上で制作をしたり、自分の作品を作るというよりはワークショップに参加してもらおうという感じでした。素材も段ボール、空き瓶、土とか、子供でも大人でも使える素材を使っていました。2017年ごろから現在のようなぬいぐるみを使った作品を発表しています。

——今回の展示について教えてください。

今回の展示では、外光が入ってきて、下が書店で色んな人が来られて、という環境の中で憩いの場が作れたらいいな、と思いました。《泉》は水の周りに人や動物が集まる場所であって、座ることもできるし、ぬいぐるみを動かすこともできるし、今回の展示の象徴的な作品として制作しました。写真作品はいろいろありますが、上半身裸の写真があるのは、ぬいぐるみって服を着ていないことが多いので、裸の付き合いという意味があります。他の写真作品は記念写真だと考えていて、家族と旅行して記念に写真を撮るように、一緒に旅行して、ぬいぐるみと写真を撮っています。《最後まで遊ぼう》は、友達のお子さんと作家活動初期のころのワークショップのように遊びから作品を作る、ということをした作品です。そしてずっと様子を見守っていたその子のお母さんに外からどう見えているのか、というのを書いてもらいました。そのテキストと作品を痕跡として展示しています。

——どんな制作環境で制作していますか。

山科に共同作業場を一面借りていて、そこにぬいぐるみや道具類を置いています。ほかの人たちは舞台美術の人で、木工作業が多いので埃がすごくて、ぬいぐるみを置いておく場所ではないです(笑)。制作は基本的に外で行っています。写真作品は軽バンのぬいぐるみを入れるだけ詰めて、旅行して、この場所がいいな、と思った場所でぬいぐるみと写真を撮っています。今回の噴水のような大きな作品は、友達の作業場を使わせてもらって制作しました。

——展示をご覧になる方に一言お願いします。

この展示は、遊びの場を作ったと思います。公園的なイメージです。みる、きく、さわる、などさまざまな見方ができる展示にしたかったので、その人それぞれの鑑賞方法(遊び)で楽しんでほしいです。この空間の中で面白いところを自分なりに見つけたら教えてください！



好きな本

『週刊少年ジャンプ』 集英社

『人形と人間のあいだ』 菊池浩平著 NHK出版